



第1号
発行所
市川かずひろの会
藤沢市川名181-18
B-1001
TEL/FAX (24) 4871

いまもあしたも 誇れる藤沢であるために 地方議会への挑戦

ご挨拶

藤沢の鶴沼神明に生まれて三十四年、湘南の海と豊かな自然に囲まれたこの藤沢に育ったことを、誇りに思います。

私は平成十年より衆議院議員甘利明代議士の秘書として活動してまいりました。その間、国政の事、地域の事、様々な事を勉強してまいりました。そして、市民の皆様がその世代世代で、多くの悩みや問題を抱えていることを改めて知りました。今の政治はその一人一人の声に目が行き届いて

ないのが現状であり、私はそれが大変残念なことだと思えます。

生活に密着した問題は地方分権化の中で、国任せにするのではなく、藤沢市という地域性に応じた解決策を求め、私たちが自身が行動する必要があると

思います。私、市川かずひろは国務大臣、国会議員秘書の経験を生かし、藤沢市民の皆様のお役に立てるよう努力してまいります。どうぞ皆様の温かいご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

私の事務所で学んだ経験を地方自治に実践してくれる事を大いに期待します。

甘利明代議士より激励

「正しいものが報われる社会にしたい」その一念で命がけて頑張ったこと、その思い出し、自分の信念を貫き、自分に負けないで頑張ってください。思います。



甘利明代議士
「正しいものが報われる社会にしたい」その一念で命がけて頑張ったこと、その思い出し、自分の信念を貫き、自分に負けないで頑張ってください。思います。

私の住んでいる自治会の皆様は「安全で安心して暮らせる地域づくり」を最重要目標として自治会活動にご尽力されています。私たちが普段段にとめることもない安心や・安全は誰が保障してくれ

藤沢のグラウンドデザインを創ります

元国務大臣秘書の経験を活かします

位一体改革が、国と地方とのお金のやり取りに終始してしまつたように、改革の本丸となる地方議会は手がついておりません。国に対してお伺いを立てるだけで、自ら政策を提言することすらしない地方議会をそのままにして、いくら権限と財源を移譲しても、市民の皆様にとつての真の地方自治はできないと私は考えます。ご存知のように、地方議会の役割はその地域の様々なルールを決める事や住民からの税金の使い道をチェックする

安全で住みよい 地域づくり

安全で住みよい地域づくり

市川かずひろ 34歳
昭和46年4月8日

藤沢鶴沼神明に生まれる
おひつじ座 B型 長男

昭和53年3月 六会幼稚園 卒園
昭和53年4月 六会小学校 入学
サッカー 六会FC

(数々の大会で優勝！藤沢市選抜にも選ばれる。親の転勤の為、6年夏全国大会予選終了後、大阪へ)

昭和62年3月 湘南台中学校 卒業
サッカー部所属
平成2年3月 日大藤沢高校 卒業
サッカー部所属
平成6年3月 日本大学 法学部
経営法学科 卒業
行政法を学ぶ

(大学2年のとき清水エスパルスの入団試験受け30名まで残る)

平成6年4月 大和工商リース(株)入社
平成10年6月 政治の世界を志し、衆議院議員甘利明代議士に師事する

現在 川名 パークアリーナ在住

ているのでしょうか？

私の妻のかつての勤め先でありました鴻池よしただ参議院議員(当時防災大臣)の口癖で「自然の災害は人の力では止められないが、それに備えるのは人の力です。」「名將は晴天に風雨を想う」とよくお話をされていたのを今まさに実感しております。私は地域の皆様とともに「いざ」に備えた地域づくりを推進します。

少子高齢化社会 に対応した 施策の実現

平成十五年、平成十六

年と合計特殊出生率が一・

二九に留まり少子化が急速に進む中で、社会や経済をはじめ様々な方面に及ぼす影響の重大性に対する認識が深まってきました。一方で、六十五歳以上のお年寄りの数が増え続け(藤沢市では約六万七千人)少子化同様、各方面へ影響を及ぼしております。

このような状況の中で、私は一番大事なことは、政治がこの現状を世代間を越えて、地域の皆様に理解していただく努力をすることだと考えています。子供を持ちたい、また

は今、子育てをしている

世代の方は子育て支援の充実、小児医療費助成の拡充等の施策を望まれていると思いますし、お年寄りの方は年金、介護、医療等の社会保障制度がしっかりと行われることを望まれていると思います。

ただ、私はこの少子高齢化社会がもたらす二十年、五十年先の日本そして藤沢というものをしっかりと意識しながら、それに対応した施策の実現に全力で取り組みます。これからも、自分の想いを書き記したいと思っ

秘書奮闘記

事務所に入り初めて教えてもらったことは？

私、市川かずひろは廿利明代議士の下で、約八年余り秘書として活動してまいりました。なかなか秘書ってどんな仕事をしているか、なじみがな

いと思います。私自身秘書になりました。私自身秘書になりたかつたきつかけは、たまたま知り合った某議員の方がまあよく

おります。今は多くの方に

色々なご意見を伺って勉強しております。どうぞ

そ次号もご覧になつてくださいますようお願い申し上げます。

市川かずひろの会への 会員ご紹介のお願い

市川かずひろの会では、皆様方からの温かいご支援を頂き、会の充実・発展に努めてまいりたいと考えております。ご近所の方、お知り合いの方などを是非、ご紹介くださいますようお願い申し上げます。会のイベントのお知らせや「市川新聞」等発送させていただきます。また、皆様方のご意見を是非お聞かせくださいますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先：市川かずひろの会事務所
TEL/FAX：0466-24-4871

編集後記

自分の考えや思いを文章にするのは本当に難しいことですね。改めて実感いたしました。さらにこの新聞を見ていただき「市川かずひろ」ってどんな人間なのだろう？と思つてもうには文章だけでなく紙面全体の配置やイメージ、文字体ともすごく重要だと思ひました。やはり数多く作成していかないとだめですね。

で、そのときはまさに参議院の通常選挙を間近に控えた時期でした。私の代議士の選挙ではないのですが、甘利明代議士が責任者として臨んだ大事な選挙で、もう事務所も立ち上がり先輩秘書さんを始め多くの支持者の方がめまぐるしく動き回っていました。私は、新人として朝、事務所に着くとまず掃除、その後は先輩秘書さんの指示に従い業務を行うの

ですが、初日からびっくり！選挙前でしたので候補者のピラが事務所に山積みになっていました。そのピラを「三つ折にし、封筒につめる」というものでした。「なんだあ、簡単だな」と内心思いましたが、やっっているうちに先輩から「なんだ！そのやり方は！そんなんじゃないぞ」といきなり怒られました。私は言われるままに一枚ずつ丁寧に作業折していきま

しました。が、先輩は違いました。二十枚ずつを牛乳瓶の底をうまく使ったりズムよく折っています。「最近の若いのはこんなこともできないのか！」初日から不安が膨らんだのを鮮明に覚えています。そのお陰で今では、かなり早く折ることができるようになりました。私は自分ために今日もこの「市川新聞」を三つ折していきま